樺太地理情報 DB の使い方

中山大将（京都大学東南アジア地域研究研究所）

2018 年 7 月 2 日

1.『樺太地理情報 DB（データベース）』について

『樺太地理情報 DB』では、樺太の各地点（市街地や集落、鉄道や学校などの施設、河川や山岳などの地形）について主に日本陸海軍測図の地図・海図と現在のサハリンの地図そして Google Map とを照合し各地点の緯度経度を特定して公開しています。

当時の日本語呼称だけではなく、そのローマ字表記やかな表記、また現在の対応する地名のロシア語表記やローマ字表記、カナ表記からも各地点を検索できます。

Google Map や引揚者の方々の手記などにも現在地名と当時の地名の対応関係が掲載されていますが、網羅的ではなかったり不正確であったりします。西村いわお『南樺太：概要・地名解・史実』（高速印刷センター内出版部、1994 年）は樺太の地名を網羅した文献ですが、具体的な位置情報（緯度経度）までは記されていません。

本 DB では樺太史研究の基本的インフラのひとつとして、各地点の地理情報を公開し提供いたします。現段階では、市街地・集落のみの情報を公開しておりますが、順次、検索可能な地点の種類（河川、山岳、学校、鉄道駅など）を増やしていく計画です。

2. 基本的な使い方　（簡易検索画面）

最初に表示されている画面は、「簡易検索画面」です。検索ウィンドウに、キーワード（集落名など）を入力し下にある「検索」ボタンをクリックすることで、その語を含む地点名の一覧が「一覧画面」に表示されます。検索の際には、当時の地名の漢字、かな、ローマ字表記のほか、現在の対応する地名が判明している場合は、キリル文字、ローマ字、カナ表記も用いることができます。また、「一覧画面」には、各表記も表示されます。なお、キリル文字とローマ字の間の転写は、2010 年以降のロシアのパスポート方式（GOST 52535.1-2006）に準じています。現地名のカナ表記はなるべく一般的なものに準じていますが、長音表記や v の音訳などにバラツキがありますので、いくつかの表記で試してください。

上述の通り、検索可能な地点の種類は順次、増えていく予定ですので、検索ウィンドウの上方にあるヘッダテキストから確認してください。

「一覧画面」に表示された記事情報をクリックすると、「詳細画面」が開きその地点の詳細な情報が閲覧できます。

各地点は、所属する支庁、郡、市町村名などの情報も持っているので、たとえば、単に「豊原」と入力して検索すると、豊原支庁下の全地点が一覧に表示されます。より狭い範囲で検索をしたい場合は、次の「詳細検索」をご利用ください。

３．検索対象を絞り込む　（詳細検索画面）

検索ウィンドウの右上にある「詳細検索」ボタンを押すと、「詳細検索画面」が表示されます。特定の事項のみを検索対象にしたい場合は、この画面から検索を行ってください。

「支庁」「市町村」「大字」のいずれかから選択して検索すると、その下にあるすべての地点が「一覧画面」に表示されます。

「対応する現地語地名」の「有り」を選択してから検索すると、当時の地名と現地名の対応関係が判明している地点のみが検索対象になります。「無し」の場合はその逆となります。

４．検索結果を地図上に表示する、地図上から検索する　（時空間検索画面）

「簡易検索画面」あるいは「詳細検索画面」の左上に表示されている「時空間検索」をクリックすると「時空間検索画面」が開きます。

4-1. 検索結果を地図上に表示する

「時空間検索画面」の検索ウィンドウにキーワードを入力して「検索」ボタンをクリックすると、該当する地点が地図上に表示されます。

地図の右側に表示される該当地点一覧をクリックすると、その地点のマーカー（赤い目印）にバルーン（吹き出し）が表示されます。バルーン内の「詳細情報を見る」をクリックすると詳細情報が閲覧できます。バルーンが横長で「詳細情報を見る」が表示されていない場合は、バルーンをクリックするとバルーンが展開して表示されます。

4-2. 地図上から検索する

「時空間検索画面」の地図上である地点をクリックすると青いマーカーが現れます。そのマーカーの上にポインタを乗せると指の表示が現れ、そのままドラッグすると青い四角が広がります。検索したい範囲をそれで覆い、「検索」ボタンをクリックするとその範囲内に存在する地点がすべてマーカーと一覧で表示されます。4-1 の検索ウィンドウからの検索と組み合わせることで、特定範囲の特定の地点を地図上に表示することもできます。

５．お問い合わせ先・更新情報や関連 DB

・DB 責任者：中山大将　nakayama180416[at]gmail.com　（必ずの回答は保証できません）

・更新情報や関連 DB については、下記よりご確認ください。

境界地域史研究資料統合活用計画 https://nakayamataisho.wordpress.com/borderlandsdb/

（以上）